

# 広見短歌会

穏やかに眠むるが如く友は逝くしずかに五月雨降りゆく日なり

武田 幸子

やすらかな顔で友は逝きましぬ棺に小さくさよならを語り

佐々木登美子

娘を二人亡くしたあとの悲しみを歌と生きたる友を見送る

二宮 安恵

逆縁の悲しみ深く耐へし友黄泉路迷はずみ娘に逢いませ

蛭谷 寿子

先立ちしみ娘等に逢へしか歌友よ旅路迷はず夫にも逢いませ

伊手リツエ

童ら並び声にぎやかに茶摘みする空青く澄み風もさわやか

芝 幸子

ロボコンの全国大会のテレビ見る孫の母校は準優勝す

山本まつる

珍らしく歌会の友紬着て我れ若き頃想い浮かべり

兵田トミ子

久々に帰省した孫大人びて先づ仏壇に香立てくれし

高田 治子

人間のずるさずるずる頼りすぎ

水野 貞子

柔軟な心が危険防いでる

浅野 琴美

懲りもせずおだてに乗って泣いている

森本 幸美

酒癖がもう出る頃ぞふところ手

大野 直續

その癖も好きだとほれた娘が別れ

加藤 桂子

遠くから夫とわかる歩き癖

栗木 一郎

鼻歌も途切れ車は七曲り

宮川 柳酔

心地よい鼻歌散步喜寿の朝

武田 浅美

徳積んでも神が見落とすことがある

渡辺 光男

煩惱の果てに行き着く駅が無い

金子すすむ

マンネリの日々が幸せだと思ふ

合田 悦子

付いて行きたい付いていけない老いの坂

都 瞳

カーナビもエヤーバックもない老化

財前 溪子

幕降りてまだ指揮棒を振りたがる

宇都宮 孝

## きほく川柳会

### 鬼北の足跡を辿る…【第3回】

#### 父野川下・松根油工場

8月15日は終戦記念日・今回は太平洋戦争にまつわる戦争遺跡を紹介いたします。皆さん、「松根油(しようこんゆ)」をご存じですか？これを聞いてピンとくるのは、戦時中を生きてきた方ぐらいでしょうか。読んで字のごとく、マツの根から採取される油状液体のことです。

この松根油は、戦前から専門の製造業者もあり、塗料の原料や選鉱剤として利用されてきました。やがて太平洋戦争が激化するにつれ、国内の燃料事情は極度に逼迫してきました。そこで軍により進められたのが、松根油を原料に航空揮発油を製造すること、つまり、この燃料をもとに飛行機を飛ばそうという計画です。昭和19年には「松根油等緊急増産対策措置要綱」が、次の昭和20年には「松根油等拡充増産対策措置要綱」なるものが閣議決定されています。

これにより、国民には無償労働奉仕が求められ、鬼北町でも原料であるマツの伐採やマツの根掘りに従事した経験をもちの方がおられます。日吉地区では20人余りの予科練が来て作業に従事していました。採取されたマツの根等が集積される松根油工場があったのが、父野川下地区です。他の地区でも同様の施設があったと思われませんが、残念ながら把握できておりません。戦争を知らない世代の方々からすれば、「なんて馬鹿げたことを…」と一笑に付すかもしれませんが、しかし、そこには「お国のために」懸命に生きてきた人々の姿がありました。二度と戦争の惨禍を繰り返さないためにも、戦争遺跡を後世に語り継ぐ必要があります。皆さん。ぜひ情報をお寄せください。



父野川下・上川口。かつて右手の河川敷に工場があった